

外国人を支えるやさしいまち（①協働に至る過程）

資料 4

【市民協働事業評価】

評価	人数	コメント
A	11人	委員 1 本事業が継続していることを評価。
		委員 2 基本的な運営の役割分担は定着している 様子である。また、他部門特に学校関係及び教育委員会等との連携や、関連機関との連絡会の重要性を共有し、協働し目標達成に向かって行動できている点は評価できる。
		委員 3 コメントなし
		委員 4 こまえくぼから、街の課題として市民へ呼びかけ、団体ができて、行政と協働。地手に良い流れの事業だと思います。
		委員 5 コメントなし
		委員 6 計画段階から、市と団体との協力関係が構築されているようである。 実施段階にあたっても継続的に情報共有がなされている ようである。
		委員 7 コメントなし
		委員 8 外国にルーツを持つ粕江在住者も増えてきたため、必要な取り組みである と感じられる。
		委員 9 当初、市民提案型に手を上げて、こまえくぼの支援を受けNPO法人を立ち上げた。年を重ねるにつれ市と団体との協働の歯車がかみ合ってきているとの印象を受けた。
		委員10 コメントなし
		委員11 まず目の前に困っている人がいるので、その人を対象にできることから着手し（NPO法人）、そこに行政が関われるテーマに取り組みを始めるというステップは順当だと思います。
B	0人	
C	0人	

※評価内容

- A 優れている
- B 適切だが、工夫の余地がある
- C 適切とは言えず、改善が必要

外国人を支えるやさしいまち（②協働体制）

【市民協働事業評価】

評価	人数	コメント
A	8人	委員1 団体のみでは難しかったであろうケースの対応が進められたこと（特に、 市と団体代表が中学校を訪問し、中学校へも放課後支援を導入できたこと ）を評価。
		委員2 課題を行政とNPO法人が共有し、学校に直接働きかけ、現状調査や学校訪問（初年度から課題に感じていた点）をして教育部門と具体的連携ができ、中学生に特化した新たな放課後支援が始まったことは素晴らしい。
		委員3 コメントなし
		委員4 団体と行政で現状の課題を解決しつつ、困っている方へアプローチできるよう、工夫できている様子があって、良いと思う。
		委員5 コメントなし
		委員6 市民協働にとって最も重要な課題は情報の共有と思われる。計画段階では十分なされていても、いざ実施期間に入るとおろそかになる場面もあるが、ここでは十分 情報の共有とそれに基づく連携体制ができている 。ただ、学校関係の情報がどれだけ報告されているか、密接な情報交換の場があるかどうか疑念が残る。
		委員7 コメントなし
		委員10 コメントなし
B	3人	委員8 調査を実施していても把握件数が少ないということもあり、実際に困っているながらも支援に結びつかないケースもあると思われる。
		委員9 団体の活動が広がりをもたせ、サポート内容の充実多様化も求められる。 支援者のスキルアップや人材確保について検討を要する。
		委員11 行政に関わる以上、 公平性と効果の検証が今後必要 になると思います。行政には、その部分を見据えての将来計画（どこまで、どの程度等）の検討が必要になると思われるが、現状その仕組みづくりが見えていないのは不安。
C	0人	

※評価内容

- A 優れている
- B 適切だが、工夫の余地がある
- C 適切とは言えず、改善が必要

外国人を支えるやさしいまち（③協働の成果）

【市民協働事業評価】

評価	人数	コメント
A	4人	委員 4 中学生に特化した新たな放課後の場を作れたことや、学校との連携もさらに進んだ様子は、とても成果が出ていると思う。
		委員 5 コメントなし
		委員 6 団体の規模はそれほど大きくないにも関わらず、広範囲にわたる事業内容が示されており、市がどれだけ支援されるかがこの事業の成否に関わると考えられる。全体に協力関係が有効に働いているようである。ただし、 市、学校、教育委員会、他の関連団体などとの意思疎通が今後どのようになされていくかという課題はあるのではないか。 市が「外国人を支える」という事柄に対してどのような問題意識をもち、当該団体だけではなく、市民一般に対して示すことができるかが、市民協働の成果のように思われる。
		委員 9 市と団体の役割分担が明確で、それぞれ互いの強みを活かした活動が実施されている。 令和7年度は、新たに中学校支援も加わった。関係機関との情報共有や市窓口職員研修の実施など、市が団体との橋渡し役として有効に機能していると思う。。それにより団体の活動もスムーズに行うことが可能になったと思う。
B	7人	委員 1 利用者アンケートを行っていることはよいが、本協働体制がどのような仕組みに発展できるのか、すべきなのかより具体が見えるようにしないと、毎年多様な支援ができた、で終わってしまうのではないかな。
		委員 2 学校との連携を図ることにより、中学生に特化した新たな放課後支援が始まり、連絡会の開催により、協力体制は構築できつつあるが、より具体的、継続的支援のための連携体制の推進が必要である。また、 支援者育成の問題解決に向けての取り組みの工夫がますます必要 である。
		委員 3 団体の謙虚な姿勢から団体側の総合評価がBであったことから、支援の質の向上など努力の余地はあったと感じた。
		委員 7 サポートが必要な実態数の掌握には引き続き務めてもらいたい。 利用者アンケートの結果を見るとまだまだサポート体制が構築されていないように感じる。
		委員 8 団体の各イベントへの参加人数が比較的とれていたように感じられる。
		委員10 支援者のスキル面に課題がある とのこと。更なるスキルアップに頑張ってもらいたい。
C	0人	委員11 NPO法人の働きかけもあり、支援の現場に行政側も足を運び、実情を共有できたのは今後に向けての成果となると期待。またNPO法人側から被支援者のアンケート結果が示されたのは、第三者視点で当該関係者の独善的な対応に陥っていないかの確認に有用。そこから次の課題があぶり出される発展可能性にも期待。

※評価内容

- A 協働による大きな成果が得られた
- B 協働による成果が得られた
- C 協働による成果があったとは言えない

外国人を支えるやさしいまち（④総合評価）

【市民協働事業評価】

評価	人数	コメント
A	6人	委員3 市との協働だからこそ得られる情報や学校との連携など、市民協働事業にすることで多くの成果を得られているように思います。 支援を必要とする人数など市が把握すべき俯瞰した情報と支援を必要とする人と直接対話しているからこそ得られる丁寧な情報収集が相乗効果となり、市民協働事業としては、理想的な内容の事業になっているのではないかと思います。
		委員4 年々、事業の課題を行政と団体で解決の努力が見られていて、さらに事業も発展し、団体からは、団体だけでは解決できないケースに担当課の協力があつたことで円滑に進められた。との記載もあり、行政もしっかりと協力しようとしている様子が見える。 総合評価が、行政がAに対し、団体がBとしているが、これは、団体の理想がもっと上だということのように感じる。 この理想像を、次年度さらに共有し、発展できることを期待したい。
		委員5 とても市民に優しいNPO法人だと思います。
		委員6 総じて十分な協働体制が取られていると思われる。 「外国人を支える」という課題は言葉のみではなく、生活や人権など多方面にわたる。ひとつひとつの課題とともに総合的に向き合う時がきている。今回の協働事業を一つのきっかけとして、狛江市在住の子どもから大人まで、どのように地域住民として外国の方に向き合うのか、何か示して欲しい。
		委員7 困ったときどうしてるか？をどんどん集め ガイドブック等を作成しマンパワーにかかる負担が減らせれば尚良いのではと感じた。
		委員9 団体の活動や必要性について学校・関係機関において着実に周知されてきている。市は「適切な支援に繋げていけるようサポートを継続していきたい」と質問に回答している。令和7年度終了時点はA評価だが、 今後の課題として、活動内容をさらに包括的に展開してゆくのであれば、協働事業としてどのように体制構築するのか具体的な検討が必要と思われる。
B	5人	委員1 継続して新たな支援につなげられていることは評価に値する。一方で、 今後外国人材の増加も見込まれるなかで、本協働体制を経て、どのような仕組みを構築していくべきなのか、市と団体双方が具体的なイメージをもって取り組む必要性 も感じる。
		委員2 協働体制における役割分担が相互理解の上である程度定着し、その上で課題についても共通認識できている。その共通認識のもと教育部門に対して、外国人の子ども達の実態調査や働きかけが行われて、中学生の放課後支援が始まったことは評価できる。 今後、連絡会の継続や、関係機関への働きかけ等、特に教育委員会との連携や、働きかけ易い窓口の在り方、教育並びに生活全体の支援を視野に入れた、連携強化が望まれる。 「外国人を支えるやさしいまち」というテーマから考えると、支援者をどう育成するか、また、現状を市民に考えてもらうような働きかけも今後必要と思える。
		委員8 重要な取り組みで、団体による参加者の人数も多かったが、行政において参加者が少なかったり把握件数が少ないといった開きがある。この点を改善していく必要がある。
		委員10 自己の総合評価が「B」である以上、それ以上の評価はできないものと思料。
		委員11 狛江市の国際化の足元で何ができるのかの実験台となっているのかも知れません。NPO法人の活動→市民協働→行政のニーズ整理と政策化の流れが感じられる取り組みになることが期待されます。
C	0人	

※評価内容

- A 優れている
- B 適切だが、工夫の余地がある
- C 適切とは言えず、改善が必要